

<全体分析>

試験時間

80分

解答形式

すべてマーク式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

英文の総語数は1,962で2023年度の1,981とほぼ同じ。設問数も49で変化なし。

出題の特徴や昨年との変更点

- ・語彙力に関する問題、会話の空所補充問題、インタビュー形式の問題、読解総合問題などがバランスよく出題される。
- ・設問の指示や選択肢はすべて英語である。
- ・2020年度に復活したインタビュー形式の問題は5年連続して出題されている。（1999年度、2004年度、2006～2011年度、2014年度にも出題されてきた）。

その他トピックス

- ・ここ数年、大問Iでは単語に関する問題が新たな形で出題されてきたが、2024年度の[A]は2023年度と同形式。
- ・大問I[B]の独立した短文を用いた空所補充形式の語彙問題は本学部では極めて珍しく、一括して選択肢が与えられる形式でも1993年（10問）を最後に出題がなく、2024年度のような設問毎に選択肢が与えられる形式は1987年（5肢選択10問）を最後に長らく出題されていなかった。
- ・大問V(46)―(49)では、与えられた発言をしそうな本文の登場人物を答える問題で、慶應義塾大学では経済学部でおなじみの形式。
- ・2023年度に大問Vで出題された語句整序問題とタイトル選択問題は、2024年度は出題されなかった。
- ・かつては頻出だった文法・語法の正誤判定の問題は5年連続して出題がない。

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	その他	語彙に関する問題	[A] 下線を挟んで左右に単語が示されたものが5組あり、各組で左右それぞれの単語と組み合わせで別の単語になる単語を選ぶ問題。2023年度と比べるとかなり解きやすい。 [B] 空所補充形式の語彙問題。(6)の give A away は「Aの正体を思わず現す」という意味。	標準
II	読解総合	「私の友人、探偵シャーロック」 (285 words)	本文中の下線を引かれた語の定義として適切なものを選ぶ問題。定義は英語で書かれている。下線部の語は難しいものが多いので、単に語彙力だけでなく、文脈から判断して正解を求める読解力が必要。本文中の働きから下線部の語の品詞を判断し、それに合わせて選択肢を絞り込む。(15)のように確定しにくいところは後回しにするのがよい。	標準
III	その他	会話文 「ChatGPTに関する 高校生の会話」	[A]・[B]ともに空所補充。 会話表現に関する知識を問う問題というよりは、文の構造や指示語の指示内容を考えて解く読解要素の強い問題。[A] 1の I beg to differ.は相手に賛成できないときに用いる表現。	標準
IV	その他	「ノーベル平和賞を受賞したジャーナリストへのインタビュー」(891 words)	インタビュアーの言葉とそれに続くジャーナリストの適切な返答を組み合わせる問題。 インタビュアーの前後の発言や選択肢の中に含まれている代名詞等に注目して考えると正解がわかる問題が多い。	標準
V	読解総合	「旧 Twitter での誤情報拡散について」 (786 words)	内容不一致、内容一致、文整序、空所補充 (41)は5文の整序問題だが、5つの選択肢が与えられているので、それぞれを当てはめて考えればよい。 (42)の in the know は「事情通である」という意味。 (46)―(49)は各人物の経歴や研究内容が整理できていれば正解は見つけやすい。	やや易

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

- ・例年、語彙力を問う問題が多く出題されるので、単語・熟語の確実な知識の習得が欠かせない。
- ・読解総合問題では、難度の高い英文が出題されることもあるので、少し難しめの英文もとりいれながら読解力を高めておくとよいだろう。その際、パラグラフごとに内容を把握することを心がけよう。